

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 26 年度第 6 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 26 年 11 月 20 日 (水) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所本庁舎 3 階第一会議室		
出席者	委員	<出席者：13 名> 大江会長・渡辺副会長・加藤委員・降旗委員・波多野委員・清水委員・多田岳人委員・多田典子委員・勝又委員・北澤委員・鶴田委員・豊田委員・岡山委員 <欠席者：1 名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・秋元ごみ対策課長補佐・井上・佐藤・穠山・吉田	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	1
会議次第	1 開 会 第 5 回審議会会議録の確認について 2 議 題 一般廃棄物処理基本計画の策定について (審議) 3 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 26 年 12 月 12 日 (金) 小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		

審議過程（主な発言等）

大江会長	第6回の小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催させて頂く。最初に事務局から配布資料の確認をお願いする。
秋元ごみ対策課長補佐	(配布資料確認)
大江会長	第5回の会議録について意見・修正があれば発言をして頂きたい。
多田岳人委員	11ページの4行目、「資源物自体も可燃ごみに次いで多い」の後に「ので、」を加筆して頂きたい。
大江会長	指摘していただいた内容を修正した上で、他に意見・修正がなければ公開手続きを執るが宜しいか。
委員各位	(異議なし)
大江会長	それでは議題1「一般廃棄物処理基本計画の策定について」の審議に入らせていただく。基本計画に入るが、事務局から事前に送付されている資料説明について、今の修整版の素案も含めて事務局からご説明頂きたい。
小野ごみ対策課長	(基本計画素案、基本計画スケジュール案、条例・規則、平成25年度廃棄物会計、資料説明)
大江会長	審議会資料の「基本計画スケジュールの変更予定案」で、市民説明会等をやるべきであるということを進めてきているが、このスケジュールで考えると、今日は基本計画素案の大枠を是非とも結審したい。どうしてもできない場合は、そこをピンポイントで絞っていくことも必要だが、できれば今日素案を了承できれば、平成26年12月12日の審議会から平成27年度一般廃棄物処理計画策定の議論もできる。処理計画の議論も12日を入れ3回予定されているが、11回のところで答申していくためには、非常にタイトなスケジュールである。時間内には是非とも議論を尽くしたいので、ご協力よろしくお願ひしたい。新しく素案について質問等を受けていきたい。
加藤委員	スケジュールで、市民説明会は平成26年12月17日、18日どちらかだが、市民に知らせる時間がない。いつ、市報で知らせるのか。市民がこの1回で集まるかどうかというのがある。最低2回くらい必要だと感じるが、補足説明をお願ひしたい。
大江会長	市民説明会について、今日結審した場合はこのスケジュールでいけるが、決まらなければ、議会との関係その他からずれ込むか、あるいはできなくなる可能性もある。今日結審した場合、どのように市民説明会を広報するのか、事務局で案があれば考えていることをお願ひしたい。
小野ごみ対策課長	今日結審をいただいても12月1日号の市報には間に合わない。12月15日号の掲載となる。今考えているのは、その他にホームページでお知らせ

審議過程（主な発言等）

	<p>することを考えている。また、17日または18日という記載について、1回にするか2回にするかについては検討していない。基本的には今日の審議の状況によって変わる。</p>
大江会長	<p>今日決まった場合、12月1日号に載らないにしても、ホームページ以外の広報手段はないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>色々な広報の手段について、所管課と調整中である。</p>
加藤委員	<p>12月15日号の市報の配布は15日前後になると思うので、市報以外に市民に知らせる方法を考えないと、出席が難しいと思う。</p>
小野ごみ対策課長	<p>市報について、15日号は12月9日から11日の間に全戸配布される。</p>
大江会長	<p>タイトなスケジュールなので、再設定は難しい。</p>
清水委員	<p>市民の意見を反映するという意味で、議会というルートがあると思う。説明会でしっかりと審議会の内容を報告する、興味のある方はそこに出て頂いて意見を言う場合もあるだろう。そこに出られない方の意見等を吸い上げるという意味で、議会の審議もあるのではないか。市民説明会で全ての決着を付けることは非常に厳しい。議会審議の中でこれがどう取り上げられるのかご説明頂きたい。</p>
大江会長	<p>本日、基本計画が結審した場合には、議会での説明があり、市民説明会、さらにパブリックコメントでも意見を聴取する。そこで出た意見をどう反映するかが今後の審議の課題である。そのためには今日の議論を充実させて審議会としての基本計画案をきちんとまとめておく必要がある。</p>
加藤委員	<p>来年度の実施計画に係るスケジュールだが、諮問の日は審議する時間があまりないので、実質、平成27年1月16日、2月6日、2月19日の後3回程の審議で答申となる。審議が長引いた場合、追加の審議会開催はあるのか。</p>
大江会長	<p>今回は新しい基本計画に基づいて初年度の計画を決めるので、何をやるべきかはかなり明らかになってきて、作業的にも素案が平行して進められると思う。それを見てから2月、3月にもっと必要となれば検討するというところでいかがだろうか。</p>
加藤委員	<p>毎年、清掃事業の概要が12月頃に出る。実施計画等の策定に当たってかなり参考になるが、平成25年度の清掃事業の概要はいつ頃出す予定なのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>清掃事業の概要についてはできるだけ早めに作成して、皆さんにお配りできればと考えている。</p>
大江会長	<p>基本計画素案でお気付きの点あるいはご意見を頂きたい。</p>

審議過程（主な発言等）

渡辺副会長	<p>基本計画素案43ページのごみ量の比較で減量推移のグラフがあるが、計画としては平成25年度の数値を基にマイナス10%で40g減らすのだが、自然に推移しても14g減るので、後26g減らせば良いという感じになっている。この表示の仕方で良いのか疑問に思う。</p> <p>もう1つ、前回の資料で何をするとどれくらい減って、それを積み上げると40gになるという減量効果シナリオを出しているのですが、参考として計画にもシナリオを組み込むことができたなら、もう少し説得力が出るのではないかと。</p>
加藤委員	<p>減量効果シナリオについて、啓発での減量だけでなく、分別での減量の内訳もあり、その内容を計画に盛り込めばイメージが湧きやすいかと思う。</p>
渡辺副会長	<p>シナリオについては、素案の中に何も入っていないので表示したらいいかがか。</p>
大江会長	<p>素案のどの辺に出せるか。</p>
渡辺副会長	<p>位置付けとしては本計画の目標値ということで40g減らすという話が出たところで、内訳としてはこんな感じに減らせるということでどうか。詳しい取組は後のページという位置づけでも良いではないか。数字に関しては参考値であって、必ずしもこの値ではないかもしれないが、とにかくこういうふうに積み上げれば40g減らせるというのは示しておくのと、減らすことの説得力がかなり増えるのではないかと。</p>
岡山委員	<p>40ページ、41ページの目標値のところが一番重要な目標である。2の埋立処分の前に、残り46ページ以降の具体的な施策案に照らし合わせて、食品ロスで5.6%くらい減るとか、水切りによって7.1gくらい減ると列挙し、詳しくは46ページ以降あるいは第2節以降という形で書いておくのが良いのではないかと。</p>
大江会長	<p>40ページ、41ページが減量の目標値を示しており、減量シナリオの具体的な内容をどのような形でそこに盛り込み、計画に反映するかだと思う。</p>
渡辺副会長	<p>45ページ以降は、どの施策によってどの程度という数字は全く出てこないで、少しはこの施策でこれくらい期待していると示した方がよい。</p>
大江会長	<p>シナリオを反映させて数値根拠、目標根拠を示す。例示的に分かりやすくして欲しいということだと思う。</p>
岡山委員	<p>これは計画なので今のシナリオ案も具体的に列挙するだけで良いと思う。これを広報していく時には、例えばチェックシート等があればそのまま使えらると思う。既にマイバッグ、マイボトルを持っている人がいる。持っているかチェックをしていくと、もう少し減らせる余力があるというのが一目瞭然で分かる。広報で分かりやすく提示すること、後々のことも含めて、シナリオ案を記載した方がよい気がする。</p>

審議過程（主な発言等）

大江会長	事務局いかがか。
小野ごみ対策課長	<p>まず現状推移の考え方については、平成23年度から平成25年度までの家庭系ごみの排出原単位1人1日あたりの単位の実績を統計上の6種類の関数式に当てはめ、近年の排出量実績の推移を考慮した上で、そのうちの1つを選択し、現状推移という数字に落とし込んでいるということでご認識頂ければと思う。</p> <p>減量効果シナリオ案だが、基本的には既に様々な施策をご理解、ご協力頂いている方々も含め、これだけ減らさなければいけないところが前提である。ご協力頂いていない方だけを特化して載せる形にはならないと思う。また、私たちの行っている施策は他にも沢山ある。そのうちの主だったものだけを基本計画に載せてしまうと、それだけが目立ってしまうことを事務局としては危惧している。もし載せるのであるならば、実施計画の中でより具体的に、今年度はこういうことをやって、これだけ減らしていこうという形になるのが一番良いと考えている。</p>
大江会長	実施計画でこういうことを具体的に出していった方がスムーズではないかという事務局のご意見だったがいかがか。
岡山委員	46ページ第2節1「発生抑制を最優先とした3R推進」について、ごみを出さない生活様式に向かって欲しい、また、ごみ自体を減らすリデュースを重点的に考えているので、分別の強化も含め、リサイクルよりも先にリサイクルできないところを減らすということを詳しく説明した方が良いと思う。
大江会長	確かにそうだ。「発生抑制を最優先とした3R」の具体的な意味を減量シナリオの具体的な減量内容を例で示して分かりやすく書いた方が良いと思う。
小野ごみ対策課長	補足だが、第2章の基本方針では、第1節で「循環型社会小金井の形成」という将来像を示し、第2節でその実現に向けた基本方針として「発生抑制を最優先とした3Rの推進」と「安心・安全・安定的な適正処理の推進」を示し、更に第3節で市民・事業者・行政のそれぞれの具体的な役割を示した上で、この第4節の目標値設定につながっている。つまり、第1節、第2節、第3節を踏まえて第4節の目標値があるということで、こういう表記になっている。
岡山委員	基本方針に「発生抑制を最優先とした3Rの推進」という文言は何度も出てくるが、それについての具体的な説明がないため、補足した方が良いという意見だ。
小野ごみ対策課長	そういうところも踏まえてこういう形になっているのだが、今のご意見を再度受け止めて検討したいと思う。
渡辺副会長	燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について、平成26年4月から10月までの昨年度比較では、0.3%減で、ほとんど頭打ちで減らない状

審議過程（主な発言等）

岡山委員	<p>態になっているのかなと思う。現状推移という、ほっといても減っていくという印象があり、追加で26g減量する必要があると書くことに疑問に思うところだ。43ページ図2-6の「現状推移」というこの線にどれだけの意味があるのか。</p> <p>一般廃棄物処理基本計画で書いておくのは良いのかと思う。42ページ図2-4、5の将来予測で基本的に人口が微増しても、ごみが減っているというのは初めて見た。6種類の関数式の1つを使うと、こんな感じで減るのだろう。ただ、気になるのは渡辺副会長が言うように、微減しているから良いじゃないかと取られるような気もする。頭打ちになっている状態で、さらに乾いた雑巾を絞るようなことをなぜしなくてはいけないのかという理由付けが弱いのかなと思うところだ。そこで、356gまで減らさなくてはならないということを詳しく説明した方が良いと思う。</p>
大江会長	<p>ごみ量の推計値の微減はどうして出たのか。</p>
渡辺副会長	<p>恐らく市民1日1人あたりの家庭ごみの現状に、人口微増を掛けても微減するという予測だと思う。先程のご説明だと、平成24年、平成25年、平成26年の推移を元に今後どういうふうになるか、色々な曲線を当てはめて一番妥当な線を採用した結果こうなったということだと解釈する。確かに2%、3%毎年減らせていたのだろう。その実績からすると、ほぼこれだけ減ってくるという話だろう。</p>
大江会長	<p>なぜ減らさなくてはならないかについては、小金井市の抱える課題等で伝えようとしているとは思うがいかがか。</p>
渡辺副会長	<p>それでいうと、組成分析調査でもどの程度可燃ごみに手つかずの食品類が入っているか、資源化できる紙類があるかということが書いてあり、まだ減らせるという話なのではないかなと思う。</p>
加藤委員	<p>小金井市は確かにごみが少なく、家庭系の排出量でいえばトップクラスだが、1番ではない。府中市、西東京市、調布市、三鷹市にしてもそうだが、その計画を見ると相当意欲的なことをやろうとしている。しかもそれらの自治体の数値が小金井市よりも少ないことを考えると、小金井市は相当努力をしているが、まだ減量の余地はあると思う。前期5年見直しのところは、毎年広域支援をお願いしなければならないので、啓発だけで減量が進むことは考えられないが、取組をきちんとすれば可能ではないか。その辺を少し詳しく書けば良いかと思う。</p>
大江会長	<p>目標値のところをもう少し丁寧に示すべきではないかということだが、1人あたりの排出量の現状推移のグラフについてはいかがか。</p>
加藤委員	<p>あっても良い。</p>
大江会長	<p>小金井市の中での発生抑制、減量の努力方法が、本計画の目標値の基本方</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>針のところも含めて、「3R」の中身を分かりやすく出しておいて、後の具体策に展開していけるようにした方が良いのではないかとことだがいかがか。</p>
清水委員	<p>減量効果シナリオ案では、40gの減量のうち、水切りは0.4gの減量しか期待できないとなってしまいます。重点的にPRしている内容とこの数値との整合性について、今の減量シナリオ案のままの数字で出して、水切りをやってもこれしか効果がないのかという話につながってしまうのはいかがなものか。主な項目の数値が出ているが、その数値が本当にこれで良いのかどうかということも考えないと、なかなか難しい問題がある気がする。</p>
大江会長	<p>その辺はどう出すか大変難しい。</p>
加藤委員	<p>確かに0.4gというのは、水切りにしても啓発でやろうとすると難しいくらいだと思う。先進的な取組では、啓発だけではなく、地域の集会を開いたり、モデル地域を決めて水切りの方法やグッズを与えて色々な計測をしたり、取組があって具体的な前進がある。小金井市は確かに市報等で水切りの周知徹底を行っているが、それだけでは進まない感じがする。</p>
大江会長	<p>具体的な施策の展開については実施計画に盛り込むことになると思う。</p>
勝又委員	<p>燃やすごみの収集の時に落ち葉も2袋まで出せるようになっている。それは燃やすごみの方に数値が出るのか、資源ごみに回されているのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>燃やすごみの袋に入れて出して頂いたものは、燃やすごみの数量に入っている。</p>
勝又委員	<p>小金井市は緑化ごみが多いと思う。燃やすごみで出すのはとても簡単で良いが、燃やすごみも量的に減るのであれば、そこで一手間市民に協力してもらって、枝木・雑草類・落ち葉を資源化の方にできるだけ回してもらう方法で、燃やすごみを減らすことはいかがか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>枝木・雑草類・落ち葉の有効利用のところで記載させて頂いているが、現時点で落ち葉は2袋まで燃やすごみで出して頂ければ焼却処理になっている。この回収方法の見直しも含めて51ページに記載させて頂いているので、現時点で何をどうするかは決定ではないが、そこも視野に入れた書き方になっているということでご理解頂きたい。</p>
勝又委員	<p>燃やすごみではないようにするかもしれないということか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>具体的にはまだ決めていない。そういうところも視野に入れて、こういう書き方をさせて頂いている。</p>
勝又委員	<p>燃やすごみの量が減るのではないかと考えた。</p>

審議過程（主な発言等）

小野ごみ対策課長	燃やすごみは減ると思う。ただ、今後の見直しを図ることを踏まえてこの記載にさせて頂いたとご理解頂きたい。
加藤委員	枝木・雑草類・落ち葉について平成22年度以前は100t程だったが平成24年度になると900tを超え、平成25年度は966tと資源化が進んでいると思う。ただ、まだ知らない方もいらっしゃることもあるので回収方法や回収内容についても再検討していけば、資源になっていく可能性はあると思う。このままだと、間もなく1～2年で頭打ちになるという感じがする。
大江会長	回収したものはどうなっているのか。
加藤委員	現在、回収したものは西東京市の委託業者に持って行って群馬県でチップ化し、農家の堆肥、肥料にしているとのことだ。
大江会長	それは増やした方が良い。施策の充実につながる。
岡山委員	40ページのリード文を今日ここで決めてしまったらどうか。今回ここでは資源物ではないごみを減らしたい、ごみというのはリサイクルされない部分なので、ここで改めて記載した方が良いと思う。分別はさらに強化するが、もっと重要なのはごみそのものを減らすことだ。それが「発生抑制を最優先とした3R」の考え方である。それは本章第2節に示した施策に関する具体的な取組を、市民・事業者の皆さんに徹底して頂くしかないのをお願いすると、そういうことを書いた方が良いと思う。
大江会長	その辺が入れば1つの方向付けとして、今まで検討してきた全体のリデュース、リユースを含めた可燃ごみの減量につながる。今のご意見を事務局でまとめて書いてくれると大部分ができる。
加藤委員	基本的にそれで良い。
波多野委員	一般市民が考えた場合、リサイクルできるものも全て含めてごみと考える。そこから資源に回したりするが、それもごみだという考えになってしまうと思うので、自分で出したごみの中から資源化できるものを抜いて、さらに余ったもの、資源に回せないものを減量するというのを強調して分かりやすく書いた方が頭に入ってくると思う。
渡辺副会長	市民1人1日あたりの家庭系ごみ（資源物及び集団回収を除く）ということは、可燃ごみと不燃ごみという理解でよろしいか。であれば、そういうふうには書けば良いという感じがする。
大江会長	「資源物及び集団回収を除く」という意味も伝わりづらい。これも説明して3Rの意味とつなげないと、一生懸命集団回収に出しているのに、と思ってしまう。なぜ、除くのだろうという意味づけ自体も必要かと思う。

審議過程（主な発言等）

<p>多田岳人委員</p>	<p>例えば、店頭回収や集団回収等を強化しつつ、分別の徹底をさらに市民にお願いして可燃ごみや不燃ごみを減らし、さらに市の負担も減らしていく。市が預かった資源物は積極的に売却し、お金の換えていくという表記をすれば分かりやすくなるのではないのか。</p>
<p>大江会長</p>	<p>基本方針のところを含め、全部書き直すわけにはいかないが、目標値を出すにあたって、中身に含んでいる意味を分かりやすく展開して欲しい。</p>
<p>清水委員</p>	<p>渡辺副会長の提起は、数値をもう少し明確に根拠付けて出した方が良いということで、その一例がシナリオに出ているということだが、実際の施策と数値がうまく整合性が取れるかどうかは非常に微妙なところがある。数値までは出さなくても良いが、発生抑制の意図をしっかりと明確に伝えるのが岡山委員の意図で、その場合には数値は出さずに言葉で伝えようという話だろう。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>先程のはすごく良いアイデアで、リード文でどう説明するかという時に、「発生抑制を最優先とした3Rの推進に向けて」は良いのだが、とにかく家庭ごみの可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみを徹底的に減らそうと書いた方が分かりやすい。可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみを減らすというのは、もちろん中にある資源物を分別に回すことはもとより、それ以外のリサイクルできない廃棄物についても具体的な施策にのっとなって減らしていきたい。結局それをやるのは市民・事業者なので、具体的な取組をお願いするものだと書いてはどうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>参考資料の市民1人あたりの家庭系ごみの排出量で、可燃ごみについては小金井市が最小である。ただ、不燃ごみは排出量が多い方である。類似都市の昭島市が35.8gに対して小金井市は88.6g、国分寺市が小金井市の半分の44.0g、多摩市は21.2gである。粗大ごみも小金井市は多摩26市の中で排出量が多い方だ。この対策がされなければ、単なる3Rで可燃ごみ、不燃ごみを減らそうという一般論で終わると思う。不燃ごみや粗大ごみの減量は、もう少し議論する必要があると思う。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>不燃ごみにに関して言うと、小金井市は今までの経緯から、とにかく燃やすごみを減らしたいということで、他市では可燃ごみになっているものも不燃として集めている部分があるのではないかと思う。なかなか同じものを比較しているかどうかということ、難しいところがあると思う。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>必ずしも同一には考えられないが、小金井市は多い。</p>
<p>大江会長</p>	<p>可燃、不燃、粗大、この3つを減らしていくことを明確に伝えて、店頭回収等の活用も検討してきたところなので入れていく。目標設定、目標値の辺りはリード文が非常にシンプルになっているので、もう少し説明して分かりやすくしたらどうかということだ。今日出た意見をまとめてもらえればと思う。</p>

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>今日資料として出した「生ごみ減量化機器購入補助制度の推進」について説明をさせて頂きたい。基本計画素案の50ページには「使用状況の把握に努めて、制度の改善に生かしていく等、今後の取組状況を踏まえた状況に応じた対応を検討していく」の説明補足になるのかもしれないが、提案は以下の4つのである。生ごみアドバイザー制度は前からごみゼロ化推進会議で提起している。生ごみ処理機の手引きについても提案している。啓発だけで申請数を増やすことは無理だと思う。平成19年度から平成25年度まで約3,500件申請しているが、前回資料でのアンケート結果も踏まえて、再申請の人が少ない。これは途中でやめた方が多いということだ。ごみ減量に積極的な方が、トラブル等により途中でやめてしまうことをなくさなければ、購入申請を受け付けているだけでは進まないと思う。</p> <p>もう1つは廃棄物会計の関係で、70ページの「処理コストの検討」に関して費用対効果の見直しは必要である。例えば、大型生ごみ処理機の機種を選定でも大きな差がある。機種を選定を含めてもう一度考え直さなければいけないと思う。また、生ごみ堆肥化実験施設は、平成18年に始めてずっと今日まできているが、見直しをしなければいけない時期にきているかなと思う。これもコストが高いと思う。他のところでは生ごみをそのまま収集し堆肥業者に処理してもらっている。堆肥化、資源化するにしても、コストが見合うのか考えるべき時期にきていると思っている。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>これを計画のどこに具体的に落とし込むか考えた。50ページ(3)生ごみ減量化処理機器の購入のところか、51ページの生ごみ堆肥化のどちらかだと思う。50ページ(3)に書き加えて頂いているが、「また」のところに「生ごみアドバイザー制度の立ち上げも検討する等」と加えてはどうか。</p>
<p>大江会長</p>	<p>今のご提案については、行政とごみゼロ化推進員との連携等を踏まえ、その実現可能性も含めて検討していければと思う。</p>
<p>鶴田委員</p>	<p>コストに近い話だが、基本計画の1ページの計画策定の内容で、「新可燃ごみ処理施設の平成31年度中の稼働を目指し、整備事業を実施します」とあるが、これと基本計画の関係性が非常に薄く感じてしまう。11ページにある「市民1人あたりのごみ処理経費」の折れ線グラフは、整備事業を進めるとまた上に向かっていってしまうのか、この辺がよく分からない。市民としてはこういうところが非常に気になるのではないかと思う。事業を進めるとコストが掛かっていくから、ごみは減らさなければいけない等、基本計画の中でもこの位置付けを少し表した方が良いのではないかと思う。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>これは非常に重要だと思う。可燃ごみの整備については覚書で、3市がごみ減量を進めると書いてある。新しい処理施設ができれば良いということにはならない。この関係性もきちんと覚書にも書いてあるので、文面を入れておいた方が良く思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>3ページの計画対象期間で、網掛けで直したところがある。それが具体化していく時に、中間年度で見直すことにしますとしている。それを踏まえて、その辺も含めた経費の状況は、この見直しのところになるのかと思う。</p>

審議過程（主な発言等）

岡山委員	<p>69ページにこの計画の実効性を高める仕組みのPDCAサイクルがあるが、この場合に非常に重要なのはチェック、評価である。ここをもう少し膨らませて、例えば（1）の進捗状況点検表がまさにチェックのところだが、ここは「点検します」としか書いていない。もう一步踏み込むのであれば、このごみ減量推進審議会場で適宜評価・点検をし、その結果については広く市民に公表すると、加えたらどうかと思う。ごみ処理コストの検証もチェックの部分に含まれると思う。誰がこれを評価するかは書いていないが、行政だけではなく、市民・事業者・行政が揃ったこの場で評価していくという文言を盛り込むことを提案したいが、いかがか。</p>
北澤委員	<p>評価をするのであれば、強化・充実がどこまで進んだら評価に値するのかというのが全く出てきていない。前期後記に分けているが、前期も後期もずっと充実あるいは強化となっていて、どこまでいったら前期の目標が達成できたのかというのが分からないので、PDCAは回らないと思う。</p>
大江会長	<p>強化等については、ライフスタイル変革への支援等を、ここまでいったら前期の目標、ここからは充実から強化というのが出しづらいのも確かである。全般的に情報開示を進めながらチェックしていくという仕組みのところ、それらを受け皿にしておくくらいしか、今のところはないような気がする。</p>
北澤委員	<p>そういうことであれば、市報で何回広報する、前期でそういう特集を組むということを決めておかないと、本当に強化になったのかわからない。前の資料で10年間の見直しの中もBが多い。Bというのは一部計画どおり進んでいるけれども改善の余地があるということだが、どこに改善の余地があって、次の計画にどう是正措置がなされているかというのが出ていない限り、PDCAが回っているとは言えない。こういう問題があって、ここは進まなかったから、次の段階ではここをこう改善したというのが分かると、つながっていく。このままでいくと結局次も一緒になってしまう。非常に難しいけれども、そこまで明確にやらないとPDCAは回っていかないと思う。</p>
大江会長	<p>おっしゃるとおりだと思う。</p>
降旗委員	<p>この基本計画には載せなくても良いと思うが、小金井市もごみ袋の有料化が行われ、今現在、定着して成功している。ごみ袋の有料化については発生抑制や分別といった一定の効果があると思う。一般市民の方はごみ袋を買っているわけだから、市報等にごみ袋の予算が基金に積み立てられている等、市民に分かるような広報をして頂きたい。</p>
大江会長	<p>その辺のところも記録しておいて頂きたい。45ページに、次ページ以降の表中の表記について書いてあるが、ここに次からは評価の形を検討していく等と書かないと、これで満足したのかと思われてしまう。そこは取組の1つとして、PDCAの実質的な展開に向けての指標の在り方も含めて、今後の検討課題となると思う。</p>
加藤委員	<p>途中でごみ問題が発生したからかもしれないが、現行の基本計画では5年</p>

審議過程（主な発言等）

岡山委員	<p>の見直しもしなく、10年もこういう状態で、今回新しい基本計画を作るといって状態になってしまった。これから実施しようとする基本計画については、今、前計画のようなことは本当にやめてもらいたいというのが率直な意見だ。今度の場合はちょうど3市の共同処理のことが始まるので、少し後になるかもしれないが5年の見直しはせざるを得ない。その辺はきちんと確認していきたいと思う。</p> <p>全国の基本計画を見ると、PDCAは大体入っているが、大体同じ書き方である。もし、この場でご了承いただけるのであれば、見直しの時にはこの減量推進審議会場でチェックを行う。チェック項目としては、基本的には44ページ、45ページの施策の評価をすることになるかと思う。そこまで書く必要はないが、この場で見直しをするということ、それからその結果については必ず市民に公表するという2文をここに加えるだけでも、画期的なものになると思う。</p>
加藤委員	<p>やっているところもある。日野市等でも第2次ごみゼロプランの後期についてというものが、基本計画とは違う形で出ている。</p>
大江会長	<p>PDCAの部分は評価できるようなところへ変えることが、この段階では難しい。5年後に大きく見直すと書いてあるので、今ご意見のあった点も踏まえ連携してやるということをごきちんと出してもらえないと思う。委員は小金井にずっと住んでいる方がほとんどだが、行政の担当者になると5年後に携わっている人はごく僅かになるかもしれない。そういう継続性の問題もこれからは何らかの形で担保していくことも含めて、PDCAを回すということだと思う。</p> <p>目標のリード文の充実とPDCAの部分を含め、今日出たご意見を反映し、実施計画に回すべきことは回すと議事録に残して頂いて、素案を原則的に結審させて頂きたい。さらに修正があった場合は、会長・副会長の方で引き取って見直すという形で結審とさせて頂くことでよろしいか。</p>
加藤委員	<p>基本計画の審議をこのまま続けると、事実上市民説明会ができないことになる。市民説明会は皆さんの意見を聞く極めて重要な機会なので、結審するのが良いと思う。</p>
大江会長	<p>他になければ結審するとしたいがよろしいか。</p>
委員各位	<p>(異議なし)</p>
岡山委員	<p>64、72ページに災害時のごみの対応とし尿対応がある。平成26年3月に環境省が出した大規模災害時の廃棄物処理に関する計画策定ガイドラインに基づいて、今、関東ブロックならびに23区等々が計画の策定を行っている。そういう状況なので、この中でその辺の動きがやや抜けている場所がある。それに関しては私の方で市にご意見させて頂いてもよろしいか。</p>
大江会長	<p>それらを含め、フィードバックして頂くことで進めさせて頂きたい。これ</p>

審議過程（主な発言等）

小野ごみ対策課長	で会議の中では結審させてもらうことになったが、事務局は了解か。 了解した。
渡辺副会長	これで基本計画に関しては一区切りついた。今後は議会報告、市民説明会の反応、パブリックコメント等のインプットがあった上で最終的に検討し、答申する形になると思う。次回、12月12日からは来年度の実施計画の検討に移るので、よろしく願います。
大江会長	以上で終了する。 (閉会)